

日本原子力学会 炉物理部会 第 56 回全体会議 議事録

日時： 2022 年 3 月 17 日（木） 12:10-12:50

場所： 日本原子力学会 2022 年春の年会 D ルーム（On Line 開催、Zoom）

参加者： 55～75 名

令和 3 年度 審議及び報告事項

【審議事項】

1. 令和 3 年度決算について

財務小委員会担当幹事谷中氏より、資料 56-01 に基づき、令和 3 年度(2021 年度)の決算が報告され、異議なく承認された。国際会議参加費・渡航費等が発生せず、残額が発生した。これと夏期セミナーの収益の一部が本部に納付され、夏期セミナー収益の残り等が令和 4 年度に繰り越しとなった。

2. 令和 4 年度予算について

財務小委員会担当幹事谷中氏より、資料 56-02 に基づき令和 4 年度(2022 年度)の予算案が紹介され、異議なく承認された。運営会議旅費や学生の国外会議派遣旅費・参加費への補助等が主な費目となる。

3. 令和 4 年度運営小委員会について

辻本部長より、資料 56-03 に基づき 2022 年度の運営小委員会委員の候補が紹介され、異議なく承認された。新部長は北田先生、副部長は牛尾氏。

【報告事項】

4. 第 9 回炉物理専門研究会報告

KURNS 卞先生より、資料 56-04 に基づき 12 月 8 日に On Line で開催された第 9 回炉物理専門研究会の報告がなされた。参加者は 61 名で学生 35 名、若手が 6 名。発表 12 件である。研究会の報告書は KURNS のホームページから閲覧可能である。なお、2022 年は RPHA21 開催予定のため、次回は 2023 年で計画する。

令和 4 年度 審議及び報告事項

【審議事項】

5. 第 53 回炉物理夏期セミナーの準備

近畿大学佐野先生より、夏期セミナー担当が近畿大学になったこと、8/2~8/5 で日程を検討中であること、「測定」をテーマにしようとしていること、開催地については検討中でありリクエスト募集中であることが紹介された。

6. 令和 4 年度部会企画セッション検討状況

学術交流小委員会担当幹事和田氏より、資料 56-06 に基づき令和 4 年大会企画セッション

ンとして「炉物理発 ベンチャー起業のすすめ」を検討中であることが紹介された。

質疑: テーマとしては面白いと思うが、ベンチャー起業に係る炉物理の「役割」をこの企画セッションでどう位置付けていくのか? (難しくないか?)

議論: プラントを作るという中での炉物理の立ち位置からすると炉物理とベンチャーがむすびつきにくいという印象をもつが、海外では NuSCALE 等 SMR 系でベンチャー企業が立ち上がっており、また炉物理の経験のある人材が起業しているケースが多い。学会がリモート開催であれば海外ベンチャーの方の招待講演という手立てもある。

コメント 必ずしもプラントメーカーでなくとも、数値解析に特化したベンチャー企業もあり得る

コメント レガシー起業に身をおくと、事業に直結するような目先の研究開発に取り組む状況が多く、ベンチャー系の開発はどうしても優先順位が低くなってしまう。逆にこういう発表をしてもらって炉物理分野の開発意欲高揚に繋がると面白い。

といった議論を受け、学术交流小委員会担当幹事を中心に、このテーマでセッションの具体化、充実化を図る方向となった。

【報告事項】

7. 炉物理の研究 (部会報) の準備状況

編集小委員会担当幹事家山氏より、部会報が間もなく完成、部会ホームページに掲載の運びとなることが報告された。PHYSOR2002 を指揮された Nam Zin Cho 先生の寄稿や原子力学会賞、炉物理部会賞受賞者の寄稿、中性子減速に関する自由投稿等が掲載される。

【その他】

8. 臨界安全国際会議 ICNC2023 の準備状況

JAEA 須山氏より、資料 56-08 に基づき 2023 年 10 月開催の臨界安全国際会議準備状況が説明された。国際情勢とコロナ感染の状況で現地開催できるか(仙台)、Online か、Hybrid かの決断時期を見定める必要があるが、まずゆうちょ銀行口座の開設、ホームページの立ち上げ、国際諮問委員会の準備等を進めていることが報告された。

9. RPHA2021 (韓国) の準備状況

日中韓の炉物理シンポジウムである RPHA2021 については、ホストが韓国で、In-Person Meeting でなければ実施しないこととまで合意されているが、韓国と中国のコロナ感染状況から日程が定められていない状況であり、韓国からの連絡待ちであることが学术交流小委員会担当幹事遠藤先生から報告された。

10. 「年会大会の在り方」検討状況

部会等運営委員会担当幹事亀山先生の作成した資料 56-10 をもとに、今後の学会の開催形式に関して炉物理部会内で実施したアンケート結果を辻本部長が報告した。従来の現地開催、現地開催/遠隔開催の交互開催、現地開催+遠隔開催の併用のそれぞれの形式が同様な割合で希望された。今後も学会運営担当による検討が継続される。

その他. 4 部会合同日韓セミナーについて

加速器・ビーム科学部会、放射線工学部会、核データ部会、炉物理部会合同開催の日韓セミナーについて、主催の韓国から連絡があり、主催は KAERI/KOMAC で、開催地は KOMAC の Gyeongju とのこと。主催者側から、KOMAC の特性に合わせて「加速器・ビーム科学部会」（や「放射線工学部会」「核データ部会」）を中心としたセミナーにしたいという申し出があり、今回炉物理部会としては特に対応がしない方針となった。本件は RPHA と性格が似ていることから、数年前、RPHA を維持し、4 部会合同日韓セミナーへの部会としての参加を取りやめるといった話があった。これらを踏まえて、次々回以降への対応等は次期運営小委員会で諮ることとなった。

配布資料

資料 56-01	令和 3 年度 炉物理部会予算及び実績
資料 56-02	令和 4 年度 炉物理部会予算案
資料 56-03	2022 年度(令和 4 年度) 炉物理部会運営小委員会委員 (案)
資料 56-04	第 9 回炉物理専門研究会報告
資料 56-06	令和 4 年秋の大会部会企画セッション検討状況
資料 56-08	第 56 回炉物理部会全体会合 2023 年臨界安全国際会議 (ICNC2023) の準備状況
資料 56-10	「年大会のあり方」アンケート調査結果

以上